

令和8年度（令和7年度実績）「認証評価基準に対する自己点検・評価結果報告書」

A：達成あるいは適合されている B：一部達成あるいは適合されている C：未達成あるいは適合されていない

基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	自己点検・評価委員会 評価 ※プルダウンより選択						
					(1回目) 基準項目に 対する評価	(1回目) 満たしていない理由	(2回目) 基準項目に 対する再評価	(2回目) 満たしていない理由	(3回目) 基準項目に 対する再評価	指定するエビ デンス資料の 評価	満たしていない理由
基準1 使命・目的	1-1 使命・目的及び教育研究上の目的の反映	①学内外への周知	使命・目的及び教育研究上の目的をどのように学生、教職員、役員、学外関係者に周知しているか	IR室	A		A		A	A	
		②中期的な計画への反映	使命・目的及び教育研究上の目的を中期的な計画に反映しているか	IR室	A		A		A		
		③三つのポリシーへの反映	使命・目的及び教育研究上の目的を三つのポリシーに反映しているか	IR室	A		A		A		
		④教育研究組織の構成との整合性	使命・目的及び教育研究上の目的を達成するために必要な学部・学科などの教育研究組織を整備しているか	IR室	A		A		A		
		⑤変化への対応	社会情勢や組織の改編などに対応し、必要に応じて使命・目的及び教育研究上の目的の検証を行っているか	IR室	B	「その後、社会のニーズを踏まえ、総合福祉学部をヒューマンデザイン学部へ改組し、」とあるがどのようなニーズなのかを明確に記載した方がよいと考える。	A		A		
基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	指定するエビ デンス資料の 評価	達していない理由
基準2 内部質保証	2-1 内部質保証の組織体制	①内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立	1) 内部質保証に関する全学的な方針を明示しているか	IR室	A		A		A	A	
			2) 内部質保証のための恒常的な組織体制を整備しているか	IR室	A		A		A		
			3) 内部質保証のための責任体制が明確になっているか	IR室	A		A		A		
基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	指定するエビ デンス資料の 評価	達していない理由
基準2 内部質保証	2-2 内部質保証のための自己点検・評価	①内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有	1) 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価をどのように行っているか	IR室	A	軽微な修正として、P16 7行目、「自己点検・評価委員会がプランしたアセスメントプラン」⇒「IR室がプランしたアセスメントプラン」に修正ください。	A		A	A	
			2) エビデンスに基づく自己点検・評価を定期的実施しているか	IR室	A		A		A		
			3) 自己点検・評価の結果を学内で共有しているか	IR室	A		A		A		
			②IR(Institutional Research)などを活用した十分な調査・データの収集と分析	IR室	A	現状把握のための十分な調査・データの収集と分析を行える体制を整備しているか	IR室	A			
基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	指定するエビ デンス資料の 評価	達していない理由
基準2 内部質保証	2-3 内部質保証の機能性	①学生の意見・要望の把握・分析、結果の活用	1) アンケートや学生との対話をはじめとする、学修支援、学生生活、学習環境などに対する学生の意見・要望をくみ上げるシステムを適切に整備しているか	IR室	A	軽微な修正として、修正①：本文P18 21行目 【卒業時満足度調査】の「実施時期」が「国家試験終了から卒業までに年1回」とされているが、「卒業時に1回」としてはどうか。表ではそのように表現されているのと、【卒業時到達度アンケート】の表現と統一するためである。修正②：P22 14行目、「学生が自 ら」 ⇒「学生が自ら」に修正ください。	A		A	A	
			2) 学生の意見・要望の分析結果を教育研究や大学運営の改善・向上に反映しているか。	IR室	A		A		A		
		②学外関係者の意見・要望の把握・分析、結果の活用	学外関係者に意見・要望を聞き、その分析結果を教育研究や大学運営の改善・向上に生かす努力をしているか	IR室	A		A		A		
		③内部質保証のための学部、学科、研究科などと大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性	1) 三つのポリシーを起点とした内部質保証を行い、その結果を教育研究の改善・向上に反映しているか	IR室	A		A		A		
			2) 自己点検・評価、認証評価及び設置計画履行状況等調査などの結果を踏まえた中期的な計画に基づいた大学運営の改善・向上のための内部質保証の仕組みが機能しているか	IR室	A		A		A		
3) 自己点検・評価、認証評価などの結果を積極的に公表・説明し、学生や学外関係者の理解・支持を得られるよう努力しているか	IR室	A		A		A					
基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	指定するエビ デンス資料の 評価	達していない理由
基準3 学生	3-1 学生の受入れ	①アドミッション・ポリシーの策定と周知	アドミッション・ポリシーを定め、周知しているか	IR室 募集G	A		A		A	A	
		②アドミッション・ポリシーに沿った入学受入れの実施とその検証	1) アドミッション・ポリシーに沿った入学受入れ制度を整備しているか	入学試験委員会 入学受入れ専門委員会	A		A		A		
			2) 入学受入れなどを、適切な体制のもとで公正かつ妥当な方法により実施し、その検証を行っているか	入学試験委員会 IR室 学務G 学生支援G	A	検討の詳細は公開しにくいですが、検討した形跡について議事録等で明示をしてください。	A		A		
③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持	入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか	IR室 学務G 学生支援G	A		A		A				
基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	指定するエビ デンス資料の 評価	達していない理由
基準3 学生	3-2 学修支援	①教員と職員の協働をはじめとする学修支援体制の整備	教職協働による学生への学修支援に関する方針・計画・実施体制を適切に整備・運営しているか	(保) 教務委員会	A		A		A	A	
			①教員と職員の協働をはじめとする学修支援体制の整備	教職協働による学生への学修支援に関する方針・計画・実施体制を適切に整備・運営しているか	(総) 教務委員会	A		A			
		②TA(Teaching Assistant)の活用をはじめとする学修支援の充実	1) 学修支援のために、TAやSA (Student Assistant)などを適切に活用しているか	学務G リメディアル教育 専門委員会	A		A		A		
			2) オフィスアワー制度を全学的に実施しているか	(保) 教務委員会	A		A		A		
			3) 障がいのある学生への合理的な配慮を行っているか	障害者支援専門委員会	A		A		A		

			4) 中途退学・休学及び留年などへの対応策を講じているか	(保) 教務委員会 IR室	A		A		A				
		②TA(Teaching Assistant) の活用をはじめとする学修支援の充実	1) 学修支援のために、TAやSA (Student Assistant) などを適切に活用しているか	学務G リメディアル教育 専門委員会	A		A		A				
			2) オフィスアワー制度を全学的に実施しているか	(総) 教務委員会	A		A		A				
			3) 障がいのある学生への合理的な配慮を行っているか	障害者支援専門委 員会	A		A		A				
			4) 中途退学・休学及び留年などへの対応策を講じているか	(総) 教務委員会 IR室	A		A		A				
基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	指定するエビ デンス資料の 評価	達していない理由		
基準 3 学生	3-3 キャリア支援	①教育課程におけるキャリア教育の実施	キャリア教育を教育課程に取入れ、適切に実施しているか	キャリアセンター	A		A		A	A			
		②キャリア支援体制の整備	卒業後の進路に対する相談・助言体制を整備し、適切に運営しているか	キャリアセンター	B	p34~p35下から7条目までの○キャリア支援の具体的な取組箇所は、文章校正の整理が必要である。段落ごとの記載内容となりがわかりにくい。p35上から7行目の「オリエンテーション」とは何のオリエンテーションであるか。前述の○キャリアセンターの整備の内容と整理するなど工夫が必要である。	A	オリエンテーションについて修正されている。内容の整理については以下のとおり提案する。「センターは2学部に対し」(P 35の下から10行目) 各種キャリア講座の開講、就職ガイダンスの開催 (p 36の7行目) とあるため、p36 13-17行 (総合福祉学部に対する同じ説明) は不要である。学科別の取り組みは、専門職としてのキャリア教育に限定して述べるべきであり、総合福祉学部2学科に記載のある初年次教育、一般的キャリア教育については (p 38 下から3-7行、p39の7行目) 先の p 36と重複するため不要である。P36 看護学科の直上 3-5行の卒業教育はまだ検討段階であるが、実施しているように誤解を受ける表現であるため修正 (キャリアアップ講座などを開講し、…を検討している。→キャリアアップ講座の開講などにより働く意識を高める…ことを検討している) P37-39 3学科の進路の内訳、福祉学部2学科の国家試験合格率が未記入。看護学科 進学者内訳の誤記「大学院3人」→「大学院1人、専攻科1人、特別科1人」。臨床工学科 令和4 (2022) 「年」が脱字、下から3行 臨床工学科師一士。	A				
基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	指定するエビ デンス資料の 評価	達していない理由		
基準 3 学生	3-4 学生サービス	①学生生活の安定のための支援	1) 学生サービス、厚生補導のための組織を設置しているか	(保) 学生委員会 保健管理委員会 学生支援G	A		A		A	A			
			2) 学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談、学生の課外活動への支援をはじめとする学生サービスを、学生の多様性に配慮して適切に行っているか		A		A		A				
			3) 奨学金など学生に対する経済的な支援を適切に行っているか		A		A		A				
		①学生生活の安定のための支援	1) 学生サービス、厚生補導のための組織を設置しているか	(総) 学生委員会 保健管理委員会 学生支援G	A		A		A				A
			2) 学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談、学生の課外活動への支援をはじめとする学生サービスを、学生の多様性に配慮して適切に行っているか		A		A		A				
			3) 奨学金など学生に対する経済的な支援を適切に行っているか		A		A		A				
基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	達していない理由	指定するエビ デンス資料の 評価	達していない理由			
基準 3 学生	3-5 学修環境の整備	①校地、校舎などの学修環境の整備と適切な管理運営	1) 教育研究上の目的の達成のために必要な校地、校舎などの施設・設備を整備し、適切に管理運営しているか	総務G	A		A		A	A			
			2) 快適な学修環境を整備し、かつ有効に活用しているか	総務G、IR室	A		A		A				
			3) ICT環境を適切に整備しているか	ICT教育推進専門 委員会	A		A		A				
		②図書館の有効活用	図書館を十分に利用できる環境を整備し、教育研究に資する十分な学術情報資料を提供しているか	図書・情報システ ム委員会	B	図書館の利用率が示されていない。また、利用者アンケートの結果は「満足」のみ示されているが、アンケート結果からの改善点の計画などはないのか。	B	標準作業書では利用率も求められているが、記載はないが入館者数の記載はある。利用者アンケートの結果も「おおむね好評価」とあるが、改善点などの指摘はなかったのでしょうか。ロッカー室での飲食許可などはアンケート結果からの改善ではないかと考えます。	A				
			③施設・設備の安全性・利便性	1) 施設・設備は、バリアフリーなど安全性と利便性を図り、学生の多様性に配慮しているか	総務G 障害者支援専門委 員会	A		A				A	
				2) 施設・設備の安全性 (耐震など) を計画に基づき適切に管理しているか	総務G	A		A				A	
基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	達していない理由	指定するエビ デンス資料の 評価	達していない理由			
基準 4 教育課程	4-1 単位認定、卒業認定、修了認定	①ディプロマ・ポリシーの策定と周知	ディプロマ・ポリシーを定め、周知しているか	(保) 教務委員会 IR室・学長・学部 長・学務G	A		A		A	A			
		①ディプロマ・ポリシーの策定と周知	ディプロマ・ポリシーを定め、周知しているか	(総) 教務委員会 IR室・学長・学部 長・学務G	A		A		A				
		②ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準などの策定と周知、厳正な適用	1) ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準などを適切に定め、周知し、厳正に適用しているか	(保) 教務委員会	A		A		A				
			2) ディプロマ・ポリシーを踏まえた卒業認定基準、修了認定基準などを適切に定め、周知し、厳正に適用しているか	(総) 教務委員会	A		A		A				
基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	達していない理由	指定するエビ デンス資料の 評価	達していない理由			
		①カリキュラム・ポリシーの策定と周知	カリキュラム・ポリシーを定め、周知しているか	(保) 教務委員会 IR室・学部長 カリキュラム専門 委員会 成績評価専門委員 会 学務G	A		A		A				

基準4 教育課程	4-2 教育課程及び教授方法	①カリキュラム・ポリシーの策定と周知	カリキュラム・ポリシーを定め、周知しているか	(総) 教務委員会 IR室・学部長 カリキュラム専門 委員会 成績評価専門委員 会 学務G	A		A		A	A	
		②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性	カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの一貫性を確保しているか	(保) 教務委員会	A		A		A		
		②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性	カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの一貫性を確保しているか	(総) 教務委員会	A		A		A		
		③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	1) カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか	(保) 教務委員会	A		A		A		
			2) シラバスを適切に整備しているか		A		A		A		
			3) 履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫を行っているか		A		A		A		
		③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	1) カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか	(総) 教務委員会	A		A		A		
			2) シラバスを適切に整備しているか		A		A		A		
			3) 履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫を行っているか		A		A		A		
		④教養教育の実施	教養教育を適切に実施しているか	(保) 教務委員会 成績評価専門委員 会	A		A		A		
④教養教育の実施	教養教育を適切に実施しているか	(総) 教務委員会 成績評価専門委員 会	A		A		A				
⑤教授方法の工夫と効果的な実施	1) アクティブ・ラーニングなど、教授方法を工夫しているか	(保) 教務委員会 SD・FD委員会	A		A		A				
	2) 授業を行う学生数(クラスサイズなど)は、教育効果を十分上げられるような人数となっているか		A		A		A				
⑤教授方法の工夫と効果的な実施	1) アクティブ・ラーニングなど、教授方法を工夫しているか	(総) 教務委員会 SD・FD委員会	A		A		A				
	2) 授業を行う学生数(クラスサイズなど)は、教育効果を十分上げられるような人数となっているか		A		A		A				
基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	指定するエビ デンス資料の 評価	達していない理由
基準4 教育課程	4-3 学修成果の把握・評価	①三つのポリシーを踏まえた学修成果の把握・評価方法の確立とその運用	1) 三つのポリシーのうち、特にディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか	(保) 教務委員会 IR室 キャリアセンター 成績評価専門委員会 カリキュラム専門委員会 (総) 学務委員会 国家試験対策委員会 入学支援専門委員会 (保) 学務委員会 SD・FD委員会	A		A		A	A	
			2) 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査、就職先の企業アンケートなどを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学修成果を把握・評価しているか		A		A		A		
		②教育内容・方法及び学修指導などの改善へ向けての学修成果の把握・評価結果のフィードバック	1) 三つのポリシーのうち、特にディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか		A		A		A		
			2) 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査、就職先の企業アンケートなどを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学修成果を把握・評価しているか		A		A		A		
②教育内容・方法及び学修指導などの改善へ向けての学修成果の把握・評価結果のフィードバック	学修成果の把握・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか	IR室	A	「学生ポートフォリオ」と記載されているが学務での配信等では「学修ポートフォリオ」とされている。用語の統一が必要である。p65の赤丸●箇所は確認できず。	A	p63 卒業時アンケートについて、2025年度の回収率データの後に、「さらに2025年度よりオンライン方式導入」とあり文章が前後している。オンライン導入により回収率が上昇したのであれば、入れ替えて回収率が上昇した旨を記載すべき。福祉学部の「Googleフォームにて2次元コード・・・」は先に述べたオンライン導入のことであり不要であると考えます。国家試験合格率 データが2025年度となったが、本文が変わっていない。明らかに全国水準を上回ったにもかかわらず、保健医療学部については全国水準と概ね同等、過去3年間も同様、総合福祉学部は全国平均を上回る、とあり、表4-3-1の結果と本文が一致しない。p64 就職状況は2024年度のままである。p36-38とあわせて2025年度に更新する必要がある。大学院については初年度修了生が輩出されたため「評価枠組みを整備しており、初年度修了生のデータに基づく検証を開始している」では遅く、「評価枠組みを整備した。」4行下の「なお、大学院修了生の多くは～対象外である。」につなげてはいかがでしょうか。その他、全て西暦で記載されているため、用語の統一が必要である。	A				
②教育内容・方法及び学修指導などの改善へ向けての学修成果の把握・評価結果のフィードバック	学修成果の把握・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか	IR室	A	学修ポートフォリオに変更ください。	A		A		A		
基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	指定するエビ デンス資料の 評価	達していない理由
基準5 教員・職員	5-1 教育研究活動のための管理運営の機能性	①学長の適切なリーダーシップの確立・発揮	学長がリーダーシップを適切に発揮できる体制を構築し、必要な規則を整備しているか	企画法務G	A		A		A	A	
			②権限の適切な分散と責任の明確化	1) 大学の意思決定の権限と責任が明確になっているか	企画法務G	A		A			A
		③職員の配置と役割の明確化	2) 教授会などの組織上の位置付け及び役割が明確になっており、機能しているか	学務G・総務G (総務)	A		A		A		
			1) 教育研究活動のための管理運営の遂行に必要な職員を適切に配置し、役割を明確化しているか	総務G (人事)	A		A		A		
2) 職員の採用・昇任の方針に基づく規則を定め、かつ適切に運用しているか	総務G (人事)	A		A		A					
基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	指定するエビ デンス資料の 評価	達していない理由
基準5 教員・職員	5-2 教員の配置	①教育研究上の目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任などによる教員の確保と配置	1) 設置基準に必要な教員を確保し、適切に配置しているか	総務G (人事)	A		A		A	A	
			2) 教員の採用・昇任の方針に基づく規則を定め、かつ適切に運用しているか	総務G (人事)	A		A		A		
基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	指定するエビ デンス資料の 評価	達していない理由

基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	指定するエビ デンス資料の 評価	達していない理由
基準5 教員・職員	5-3 教員・職員の研修・職能開発	①FDをはじめとする教育内容・方法などの改善の工夫・開発と効果的な実施 ②SDをはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取り組み	教育内容や方法を改善するための研修・研究を教職協働で組織的・計画的に実施し、見直しを行っているか 職員の資質・能力向上のための研修などを組織的・計画的に実施し、見直しを行っているか	FD・SD委員会 事務局長	B B	エビデンスが不明である。方針を作成したはずなので、方針に基づいて活動を行っているなどの記載があってもよいのではないかと。 SDの対象には教員も含まれていることをもう少し強調してもよいのではないかと。	A A		A A	A A	
基準5 教員・職員	5-4 研究支援	①研究環境の整備と適切な管理運営 ②研究倫理の確立と厳正な運用 ③研究活動への資源の配分	快適な研究環境を整備し、有効に活用しているか 研究倫理に関する規則を整備し、厳正に運用しているか 1) 研究活動への資源配分に関する規則を整備し、設備などの物的支援とRA(Research Assistant) などの人的支援を行っているか 2) 研究活動のための外部資金の導入の努力を行っているか	学長 研究費審査委員会 研究推進委員会 総務G・学務G 研究推進委員会 事務局 研究推進委員会	B B B	・活用状況に関する記述がありません。例えば、図書室に関しては、アクセス数などで利用状況が把握できていると推測します。ただし、他大学の評価書にも活用状況が記述されていないことがあります。 ・環境整備について、物品名を列挙したあとに「等」をつけていますが、管理運営の適切性を示したいのであれば、すべての物品名を記述するか表にまとめるべきかと考えます。 ・「Microsoft Office」は以前の名称になります。ここではアプリケーションソフトウェアの名称では無く環境を取り上げるべきかと思えます。また「研究室および自宅で利用可能」という表現は誤解（自宅のPCにインストールできる）を与えていると思えます。現状は、学外からも利用できるSaaSかと思えます。 ・「アルファオフィス」は登録商標のようです。カッコ付けた上で一般名なども記載すべきです。 ・学科実習室に設置されている実習機器のうち、研究にも利用されている機器については記載すべきと考えます。 ・記載されている情報という意味では「A」相当なかもしれませんが、表現に問題があり、評価者に疑念を抱かせると考えます。 ・p.80に「・・・、RA (Research Assistant)による人的支援体制の代替として、教員間のピアレビューによる人的支援の活用も可能な体制を整え、研究の質的向上に寄与している。」とありますが、RAを教員で代替するというのでしょうか。該当文章の意図がわかりません。また、このような場合にはエビデンスを付ける必要があると考えます。 ・記載されている情報という意味では「A」相当なかもしれませんが、p.83の【研究活動におけるRA等の人的支援に関する規則】は、ここに記載する内容では無いと考えます。 ・なお、RAは一般に博士課程の大学院生による研究補助です。そのため、本学にはなじまない制度と考えますし、RA以外での人的支援を検討すべきです。しかし、この場合の研究補助として学士課程の学生や修士課程の大学院生を利用するのは、人的支援の意図から外れるかと考えます。 ・「アルファオフィス」や「Teams」は登録商標のようです。カッコ付けた上で一般名なども記載すべきです。	B A B	・「研究環境の整備と適切な管理運営」においては、「Microsoft Office等」を削除するだけの対応は不適当と考えます。整備したアプリケーションソフトウェアやサービスを列挙すべきです。 ・「RA (Research Assistant) 制度は、本学の研究科が修士課程で、その多くが社会人であることから現時点では制度化に至っていないが、・・・」は表現に問題があると考えます。例えば、「RA (Research Assistant) 制度は、本学の研究科が修士課程のみで、そこに在籍する学生の多くが社会人であることから現時点では制度化に至っていないが、・・・」のようになるかと考えます。 ・「学内の研究者間での相互助言支援体制を確保している。」とありますので、「相互助言支援体制」の説明やエビデンスが必要になるかと考えます。 ・p.82「〇個人研究費の運用とデジタル化による管理強化」の「デジタル」は「デジタル」の誤りかと考えます。 ・p.85「〇RA制度の現状と今後の方針」において、「・・・、学士課程・大学院課程の研究中間発表会や審査発表会を公開し、・・・」とありますが、学部学生の方について研究中間発表会や審査発表会を実施しているのでしょうか？また、大学院課程は不適切な表現かと考えます。一般的には修士課程（あるいは大学院修士課程）かと考えます。 ・「アルファオフィス」は登録商標のようです。日本医療大学が開発したアプリケーションやサービスでは無いと考えています。「通称」として揭示するのは不適切と考えます。	A A A	A A A	
基準6 経営・管理と財務	6-1 経営の規律と誠実性	①経営の規律と誠実性の維持 ②環境保全、人権、安全への配慮	1) 組織倫理に関する規則に基づき、適切な運営を誠実に実行しているか 2) 法令などに基づき、教学マネジメント指針を参考に、情報の公表を適切に行っているか 3) 法人の業務の適正を確保するために必要な内部統制システムを適切に整備しているか 1) 環境や人権について配慮しているか 2) 学内外に対する危機管理体制を整備し、それが適切に機能しているか	総務G (総務)	A A A A A		A A A A		A A A A	A A A A	
基準6 経営・管理と財務	6-2 理事会の機能	①使命・目的の達成に向けて意思決定が可能な体制の整備とその機能性 ②使命・目的の達成への継続的努力	1) 使命・目的の達成に向けて意思決定が可能な体制を整備し、適切に機能しているか 2) 理事会の運営を適切に行っているか 3) 理事の専任を適切に行っているか 大学の使命・目的を達成するために継続的な努力をしているか	総務G (総務)	A A A		A A A		A A A	A A A	
基準6 経営・管理と財務	6-3 管理運営の円滑化とチェック機能	①法人の意思決定の円滑化 ②評議員会と監事のチェック機能	1) 意思決定において、理事会と評議員会が意思疎通と連携を適切に行っているか 2) 教職員の提案などをくみ上げる仕組みを整備しているか 1) 評議員の選任を適切に行っているか 2) 評議員会の運営を適切に行っているか	総務G (総務)	A A A		A A A		A A A	A A A	

基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	指定するエビ デンス資料の 評価	達していない理由
			3) 監事の選任を適切に行っているか	総務G (総務)	A		A		A		
			4) 監事は、監事の職務を適切に行っているか	総務G (総務)	A		A		A		
基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	指定するエビ デンス資料の 評価	達していない理由
基準 6 経営・管理と財務	6-4 財務基盤と収支	①財務基盤の確立	大学を運営するために必要な財務基盤を確立しているか	総務G (経理)	A		A		A	A	
		②収支バランスの確保	1) 収入と支出のバランスが保たれているか	総務G (経理)	A		A		A		
			2) 外部資金の導入の努力を行っているか	総務G (経理)	C	コメントなし。実績表記なし。	A		A		
		③ 中期的な計画に基づく適切な財務運営	中長期的な計画及びその裏付けとなる財務計画に基づく財務運営を行っているか	総務G (経理)	C	中期経営計画を策定し、年度毎の検証を行っているが、財務計画書がなし。	A		A		
基準	基準項目	評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点	所管委員会 あるいは部署	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	達していない理由	基準項目に 対する評価	指定するエビ デンス資料の 評価	達していない理由
基準 6 経営・管理と財務	6-5 会計	①会計処理の適正な実施	1) 学校法人会計基準や経理に関する規則などに基づく会計処理を適正に実施しているか	総務G (経理)	A		A		A	A	
			2) 予算と著しくかい離がある決算額の科目について、補正予算を編成しているか	総務G (経理)	A		A		A		
		②会計監査の体制整備と厳正な実施	1) 会計監査人の選任を適切に行っているか	総務G (経理)	A		A		A		
			2) 会計監査などを行う体制を整備し、厳正に実施しているか	総務G (経理)	A		A		A		